

乳幼児期の脳の発達

ユニセフ シンポジウム

2016年12月4日

本田涼子

環境から刺激を受けて発達する赤ちゃんの脳(video clipから)

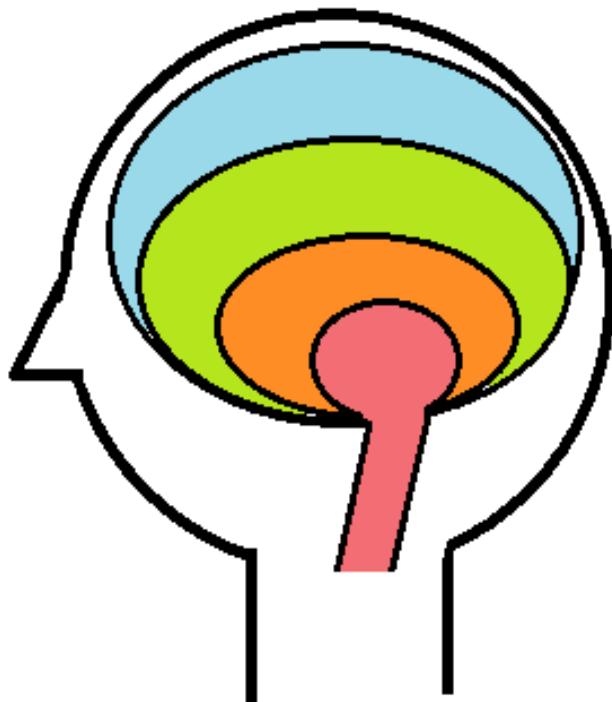
この赤ちゃんにとって世界は
どんなところ？

Video clip:

<https://youtu.be/RP4abiHdQpc>

人間の脳の発達の特徴

1) 乳幼児期に最も大きく発達



大脳新皮質:

言語・思考

大脳辺縁系:

感情

間脳・中脳:

五感

脳幹: 呼吸・

体温調節

- 脳の90%は3歳までに発達
- 発達しきるのは20歳を過ぎてから

人間の脳の発達の特徴

2) 使用依存性の発達

入ってくる刺激に合わせて
脳構造や機能が発達する
(脳の可塑性)

- 体験・環境の影響を大きく受ける
- 毎日の生活の中で探索・五感から情報を吸收
→ 大脳の中の神経線維が発達していく



人間の脳の発達の特徴

3) 臨界期(感受期)が存在する

- 五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)を通してのバランスのいい刺激が大切 = 遊び
- 発達の段階に合わせること
- 乳幼児にとって「ふれあい」も「遊び」



人間の脳の発達の特徴

4) 愛着関係に大きく影響を受ける

- 主な養育者との相互のやりとり＝脳を形成するもっとも初期の根本的な経験
- この経験を通して信頼する力や共感力が生まれる

→ 将来的な他者や社会との関わりに影響



発達になくてはならない重要な経験をはく奪されるという事実こそが、児童虐待(child maltreatment)の影響の中で最も破壊的でありながら、最も見落とされてる側面であるかもしれません

Perry, Pollard, Blakely,
Baker & Vigilante (2005):
Childhood Trauma, the
Neurobiology of
Adaptation, and “Use-
dependent”
Development of the
Brain: How “States”
Become “Traits”

